

企業名： 住友化学

レポート名： 住友化学レポート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

初めの方はなんとなく感じられるが、中期経営計画の部分から、6つの基本方針のもと、住友化学が事業を行なっているそれぞれの分野で、現在の取り組みから今後の目標などが取り組んでいる事業の具体的な紹介を入れながらどのように成長しどのような付加価値を社会に提供するかが部分的に少しずつ紹介され、会社の目指す姿が理解できた。

しかし、一番初めに目指す姿が記載されているのが9ページである。そこには目指す姿として「持続的成長とサステナブルな社会の実現へ」とあり、とても広義的な言葉が使われていて、他の部分には詳細が書かれているページ数が記載されているがそれ ここにはない。そのため、SDGsが様々な面で重視されている現在において、これは他社の統合報告書にもありそうなフレーズであり、この会社は具体的な自身の役割を見つけれられていないと読み手側は安易に感じてしまう可能性があると感じた。報告書内を全て読むと、所々に目指す姿と思われるような記載があり、最初にそのようにマイナスに捉えられてしまう可能性があるのはとてももったいないと思った。住友化学として将来ど

のような面から、どのような役割を社会の中で担い、どのように社会に暮らす一人一人に貢献するかなどを別ページなどで具体的にまとめて説明するとより良くなると考える。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

まずは、12～15 ページや 96 ページ以降の財政レビューの部分から数値的な面で、日本の化学業界における住友化学の立ち位置がかなり高いことが感じられた。また、「事業を通じた価値創造」のセクションで、各分野で具体的にどのような価値を生み出し、どのように価値が提供されているのかが、「価値創造モデル」としてまとまっていた。

このような点から、会社の競争優位性がどこにあるのかはすぐに理解することができた。

さらに、26 ページに住友化学のサステナビリティとして会社の推進基本原則や企業価値向上のモデルなどが紹介されており、長年これらに基づき日本経済が変化してきた中でも成長を遂げてきたという歴史からも、住友化学にしかない優位性が存在すると考えることができる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

各部門の紹介において、弱みや脅威といった面がしっかり記載されている。そのため、会社として問題点やリスクを理解した上で事業を行なっているため、その課題を解決し

よう、そのリスクをできるだけ解消しようと様々対策しているということが感じられた。

また、事業紹介の部分で、多くの化学的な用語が使われておりその部分に関しては理解できなかったが、現在の市場がどうなっていて、それに対して住友化学はどうアプローチしていくのかが読み取ることができた。このような面から、住友化学の競争優位性は持続することになるだろうと感じられた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

70～71 ページのすみか「こうします」宣言や人材育成についての記載などで、具体的にどのような方針が人材を育てるためにとられているのか理解することができた。また、その前後で様々なポジションにいる従業員の話を載せることで、その人材教育の結果どうなったか知ることができた。そのため、入社後どのように成長できて結果を出すことができるか想像でき、自分の人的資本の価値向上が達成できるか考えることができたと思った。

ただ、価値創造の基盤のセクションに、そして人材戦略に関する記載の後に、役員一覧やコーポレートガバナンスに関する記載があり、これは載せる場所として少し違和感を感じてしまった。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

全体を通して、「住友化学とは」「経営戦略」「事業を通じた価値創造」「価値創造の基盤」「コーポレートデータ」でまとまっているのは自分の知りたい情報がどこに載っているのか探しやすいと思うが、それぞれの境界がどこにあるのか分かりにくかった。そのため、例えばそれぞれでテーマカラーを決めてその色が入った画像を背景として使用し区別するなどの表記を改善すると思う。